



脅かされる国有林

錦秋の木曾に足を運んできた。長良川の源流にあたる味噌川ダム周辺は、赤や黄色のグラデーションが見事な景観を描き出していた▼さらに少し上流にある国有林で除伐作業を経験することが目的であった。下草を刈ったうえで、植林して二〇年前後たったヒノキを間引きし、残したヒノキにクマよけのテープを巻き付ける作業である▼この木曾地域は長野県の中でも、最も鳥獣害が多い地域で、特にクマの被害が多いという。クマよけのための試行錯誤を繰り返してきたが、今、最善の方法として取り入れているのが木にビニールテープを巻き付けるやり方である。生分解性のごく当たり前のビニールテープを使って、包帯を巻く要領で粗く巻き付ける。これに風が吹くと、この巻き付けたビニールテープの隙間を通り抜ける風が微妙な音を発生するもので、この音がクマの警戒心をそそるらしい。そして結んだビニールテープの端を少し垂らしておくが、これにクマが触れると驚いてしまうという▼作業員はビクビクしながらの林業労働を強いられるが、それ以上に問題となっているのが作業員の減少で、同時に労働の質の低下に頭を痛めているという。これまで国が作業員を直接、雇用していたものを、人件費削減のため作業を外部への委託に切り替えることによつて、作業の経験が蓄積されなくなってきたそう。ビニールテープを巻き付けられた森林は幽霊が立ち並んでいるようで気味悪くもあるが、どうもクマ以上に怖いのは財政健全化という名の現場での人減らしのようだ。

(土着菌)